

平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会記録

平成 30 年 11 月 22 日
於 会議室

1. 校長挨拶

2. 会長挨拶

3. 協議項目

1) 学校経営計画進捗状況について

9 月末現在のものである。それ以降に進んでいるものもある。

■確かな学力の育成と第一志望の進路実現に向けて

- ・(1)(2)(3)は年度末にならないと結果がでないため割愛とする。
- ・(4)進路指導室来客状況や学校説明会についての情報を取りまとめ担任団に連絡している。進路資料室の整理、常駐の教員の 1 人増員。掲示板やブログなどで、新しい情報を更新している。
- ・(5)ウェブ予備校も 71 名登録しており、目標の 70 名を上回った。

■豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

- ・(1)1 年生 1 学期：部活動の加入率 92% 現時点では目標達成。
- ・(3)遅刻者の数は 1 学期だけだが 165 名。校門に教員が立ち、生徒会の生徒や PTA の協力もあって、挨拶運動も含め、今のところ順調。
- ・(4)人権 HR のテーマ。1 年 SNS の使用方法、2 年国際理解教育、3 年は労働問題。
- ・(5)国際交流。7/9 香港中高生 20 名訪問。台風の影響により時間割変更があり、考查一日前になってしまったため、十分に交流できなかった。
そのため、改めて 10/30 香港中高生 36 名に訪問してもらい、本校生と交流。
- ・(6)安全安心な学校づくり。PTA による登校指導 4 回実施。あと 2 回予定。
- ・(7)開かれた学校づくり。部活を通していろんな中学校と関わりを持ったり、地域のコミュニティーに積極的に参加したりしている。吹奏楽部が夏祭りなどの地域のイベントにて演奏している。また 11 月から 3 月にかけて近隣中学との交流事業「香里フェス」、「香里カップ」を 5 クラブで実施。
40 周年記念事業は、枚方市民会館大ホールを使おうと思っていたが、震災で使えなくなったため、シンフォニーホールを借りる予定。11 月 1 日（金）を第 1 候補としている。事業委員会を組織しており、演目や現役生徒への記念品、記念誌などについて検討中である。

■生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- ・(1)記載のもの以外にも 10/30 地震に対する防災訓練も行った。
また 6 月地震によって受けたガラスなどの被害に、予算が付いたため順番に補修していく。
- ・(3)ICT の使用率が高く、現在ある 6 台のプロジェクターはフル稼働に近い状態である。
PTA からの寄付により、2 台追加予定。
- ・(4)第 1 回学校見学会は 400 名近い参加があり無事終了。
11 月 10 日のオープンスクールでは、保護者が事前申し込みを大きく上回り 200 名程度参加するなど、関心を持っていただいている。
学年の方から、毎週メール配信も行っている。各部活のみならず、国際交流や修学旅行などの行事があるたびに随時情報を発信していくことを心掛けている。

【質疑応答】（「委」：協議会委員 「学」：学校側）

☆委

- ・ウェブ予備校はどこで、各学年にどれほどいるのか。

→学：リクルートのスタディサプリである。年間 9000 円の利用料で中学の復習から大学受験の内容まで利用できるシステムである。個人でもできるが、学校で登録する方が割安であるため、そのような利点も上げつつ案内している。また継続するための支援を行っている。利用者は全体で 71 名であり、その内訳はおよそ 1 年 40 人、2 年 15 人 3 年 15 人となっている。

- ・学校の ICT 化が急速に進んでいるわけだが、e ポートフォリオは進んでいるか。

→学：本校は周囲よりも少し出遅れているかもしれない。現在の1年生から影響があると思われるが、校内で研究中である。関連業者と連絡を取り情報を得ているが、個人情報などの問題もあり調整中。オンラインでは難しいのであれば、紙媒体といった形で保管することで、今の1年生が困ることがないように対処する。

・香里丘は将来的に、海外の修学旅行は考えているのか

→学：付き添いの予算が今年から大きく下がった。大阪では沖縄離島か北海道が主流であり、その予算と見合うところで海外となると台湾が限界である。全員は無理だが希望者だけでも連れていける取り組みを考えようという私案はある。

☆委

・インターナショナルカレッジ香港との交流では先方が36名であったが、本校生は何人程度交流に参加しているのか。

→学：食堂でのグループ交流は6対6で6グループといった形であった。また、多くの生徒に交流してほしいということで、バス到着から出迎えおよび食堂への案内などに10名が対応し、校内や授業の様子の見学にいく少人数グループを3,4人が案内した。

・校長が職員の授業を見学して交流しているのは香里会の活動にあたるのか。

→学：見学・支援は校長の仕事である。香里会は初任者や二年目教員に首席が中心となって、教員の基礎を教えていく校内研修となっている。

→学：全体を通して授業についても指導するが、進路指導や保護者対応および生徒対応なども研修している。

☆委

防災に関して自治会でいちばん大切にしているのは安否確認である。学校の生徒たちの力も状況によっては地域の強力な力となるので、借りることができればと考えている。自治会は小学校単位で地域と連携をしているが、そこに香里丘高校も参画し、地域との連携がさらに促進するという形になってほしい。その在り方についてこちらとしても考えていきたい。

☆委

ザ・シンフォニーホールは滋慶グループの系列で、教育庁との連携協定以降、学校教育への有効活用について前向きに検討している。40周年事業の成功を祈念している。

2) アクティブ専門コースの状況について

音楽は今春一回目の卒業生を出し、スポーツは今年度2,3年生が揃った。

■音楽コース

2年生12名、3年生4名である。吹奏楽部の部員が年々増えている。コンクール北地区大会A部門では3年連続で金賞を獲得している。12月のアンサンブルコンテストでは、校内でオーディションを行い、今年はサクソ四重奏で臨む。また前述のとおり、地域でのイベントに積極的に参加し演奏している。

■スポーツコース

2年生24名、3年生20名の44で活動している。導入から3年が立ち、今年度から初の試みとして2・3年合同の授業も行っている。学期に一回程度外部の人材にも支援してもらっている。

(例①：専門学校の教員で、メディカルトレーナーでもある先生とスタッフ(学生さん8名)によるテーピングの講習。2週にわたり4時間の講習。例②：体幹トレーニングの講習。まず筋肉や骨および関節について理論を学び、その後実際にどのような方がいいか、トレーニングを実践的に学んだ。)

現在3年生は研究発表に向けて調べ学習を行っている。2,3名のグループで専門種目についてプレゼンをする。2/1が発表日であり、当日は学校運営協議会でもあるので、ぜひご覧いただきたい。初めての試みであるが、生徒はよく取り組んでいる。この取り組みのノウハウが蓄積されていくことで、さらなる探究活動の充実を図りたい。

3) 第一志望の進路実現に向けた取り組みについて

①第一回授業アンケートを踏まえた各教科の意見

7月のアンケートの結果を受けて、各教科での取り組みをまとめてある。

- ・ICTなどの視聴覚教材の利用は効果的であるとどの教科からも意見がある。
- ・定期的な小テストの実施は継続的な動機づけになっている。
- ・芸術科目では、生徒間の意見交換等、アクティブラーニングが意識されている。
- ・授業プリントに「考えてみよう」といった欄を設け、思考を促す取り組みは効果的であった。
- ・進度との兼ね合いでなかなか発表等の活動に取り組めない。
- ・宿題や小テスト等の頻度を上げて生徒にある程度の負荷をかけて伸ばす
- ・ICT機器は便利だが現在フル稼働で余裕がない。
- ・NETが1年生に主に入ってもらっているが、2,3年にも入れたらうれしい。
- ・国際交流は英語の学習の関心意欲の向上に繋がっている。

生徒の状況

- ・3年では、受験科目でない教科に対して意欲の低下がみられる。
- ・2学期に入り高校生活に慣れはじめ、だらけてくるといった現状がある。
- ・特に3年では、推薦などで進路が決まっている生徒のゆるみが顕著にみられる。
- ・学年では、最後まで勉強を頑張らせるための指導はしているが、なかなか全員には浸透しない。
- ・学年が上がるにつれて、課題の提出状況が芳しくない。

☆委

理科系の授業ではICTの活用が本当に効果的である。視覚教材として大いに役立だろう。教材として見せる映像などは、それそのものが興味を持つきっかけになることもある。台数や教室環境などに課題はあるが、より多くの授業で使ってほしい。

また、NETをはじめとする英語の授業で、生徒が英語を話すために、適切な圧力を与えることができたというのは大きな成果である。発音や文法がどうこうというのではなく、まずは自分の考えを発言しないといけない。そういった負荷は大切である。

☆委

- ・ICT機器への設備投資が厳しいという現状のようだが、大阪府は他府県と比べて充足率はどれくらいなのか

→学：都道府県だけでなく市町村でもまちまちといった状況である。府立高校は充足にむけて努力しているところである。

→委：文部科学省が設定している目標には、現状は、ほぼどの地域も達していない。

→委：授業の在り方というものも色々変わってきていて、機器不足で十分に対応できないというのは、先生方の能力が十分に発揮されずもったいない。公立高校に新たな設備投資というのは難しいかもしれないが、予算の確保に向けて校長先生には頑張ってもらいたい。

②現在検討中の施策について

分掌横断的な組織であるプロジェクト委員会において、現在いくつかの施策について検討している。

- ・英語の選択科目の改訂

より自分の望む進路実現が可能のように基礎と発展といった演習講座を開講予定である。これは次の1年生のカリキュラムからの導入が確定している。また、今の1年生が3年生になるときからの実施についても現在英語科で検討している。

- ・学習方法説明会（仮称）

頑張っているが成績が伸び悩んでいるという生徒を支援する面談である。努力は報われるという経験を通して、豊かな人間性を養ってもらいたい。

教員数には限りはあり、対象生徒も多いので、まずは教員による教科の説明会という形のものを開く方向で検討している。

- ・模試の活用

1,2年全員受験。事後指導にも時間を充てている。

・校内体制

LHR が現行では水曜 7 限にあるが、教員の研修などさまざまな出張が入ることで、担任が不在ということがある。府立高校の多くが木曜日に LHR をしており、本校でもそれにならう形とする。これは次年度からの確定事項である。

・施設利用

学校経営推進費の獲得は最終選考まで残ったが取れなかったため、次年度再度獲得をめざす。

③本日の授業見学を踏まえてのご意見

☆委

授業をすべて英語で行うなど、英語授業のレベルは高い。音楽も作曲していたりと、とても専門的な学習ができている。体育のダンスではチームによって個性があり、みんなが楽しんで生き生きしていることが良く伝わった。

☆委

テンポが良く先生と生徒の会話のキャッチボールがよかった。音楽のアクティブ専門コースは、少人数であり、恵まれた環境だった。体育の柔道では、生徒の行儀がとてもよかった。保健での遺伝子組み換え商品についての授業は、生徒たちに消費者としての責任というのを問うていて、おもしろい内容だった。

☆委

ICT 機器を使って映像を投影することと、黒板を使って板書することの両方を使い分けていて授業に工夫されている。それぞれの良さがあって、場面ごとに使い分けていってほしい。生徒の声は小さいが、どの先生も声がしっかりとよく通っている。

☆委

人の授業を見るのは自分の授業がうまくなる一番の近道だと思う。校内でも互見授業に取り組んでもらいたいし、校外にも積極的に出てほしい。

カリキュラムマネジメントは、新学習指導要領でも重要なキーワードである。保健で扱う内容でも、生物や家庭科、社会などの内容と関連させるなどし、教科横断的な学習を進めていけるといいと思う。

4) 来年度使用予定教科書について

☆委

教科書、資料集、問題集と多くの教材を持っているが、教科書だけやっていたらいいというものではないのか。教科書の内容だけでは足りないといったことがあるのか。

→学：教科書も会社によってさまざまである。例えば本校の日本史では一番難易度の高いものを選択しているため、これがあれば受験にはまず対応できる。しかし教科書によっては、それだけでは 2 次試験や私立の入学試験は厳しいのではないかと思われるものもある。

4. 校長謝辞

次回予定 平成 31 年 2 月 1 日 (金)